

キャリアアップを目指すための

# School Guide

## スクールガイド 2017

企業法務パーソンが知識を深め、またキャリアチェンジして弁護士資格を目指すには、どのような場でどう学ぶべきなのか。早稲田大学法学学術院で教鞭をとるクリストフ・ラーデマツハ准教授が、一般企業に会社員として勤めた後に一念発起してゼロから法科大学院で学び、活躍している内田・鮫島法律事務所の松原正和弁護士にスクールでの学びについて聞いた。

制作/レクシスネクシス・ジャパン広告出版部

### Interviewer

早稲田大学法学学術院 准教授  
法学博士(ドイツ)

弁護士(米国・ニューヨーク州、欧州・アイルランド共和国)

クリストフ・ラーデマツハ

### Interviewee

弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 弁護士

松原正和

## 社会人を経たからこそ気付く 「学ぶ」ことの必要性

### ① なぜキャリアチェンジを 目指したのか

**ラーデマツハ** 松原さんは一般企業での勤務を経た後に法科大学院に通う選択をされましたが、それまでどのようなキャリアを積まれたのでしょうか。

**松原** 大学卒業後は、約12年間ソフトウェア企業やIT企業で働いていました。

**ラーデマツハ** 出身学部は理系でなく、文系ですよ。

**松原** はい。文学部で中国哲学が専門でした。就職先にソフトウェア業界を選んだのは、当時はインターネットが急速に普及した頃で、面白そうだと思ったからです。はじめはベンチャー企業でプログラマーとして働き、その後ヤフーに転職してウェブサービスの企画に携わっていました。

**ラーデマツハ** キャリアを移られ

たきっかけは何だったのでしょうか。

**松原** もともと「全く別の業界も見てみたい」という気持ちがあり、「学生生活をもう一度送るの也不错い」と思っていたのです。妻にも結婚前から「大学に行くかもしれない」とは話していました。「法科大学院でゼロから法律が学べるようだ」という程度の認識で法科大学院を受験しました。

**ラーデマツハ** 経済的な心配などはありませんでしたか。

**松原** 当時は半分フリーランスのような形で働いていたため収入はありましたし、妻とは共働きだったので、4〜5年であれば私に収入がなくてもやっていけそうだなと。

**ラーデマツハ** 奥様からの文句もなかったのですか(笑)。

**松原** 「本当に行くの!?!」とは言われましたが、最終的には理解してくれました。それが一番大きかったですね。私自身は「何とか



クリストフ・ラーデマツハ  
Christoph Rademacher

07～08年、10～14年ベーカー&マッケンジー法律事務所(外国法共同事業)勤務。09年スタンフォード大学ロースクール卒業。09～10年Google, Inc.勤務。11～14年早稲田大学高等研究所助教。14年～早稲田大学法学学術院准教授。

やっていけるのではないかと樂觀的に考えていました。

**ラーデマツハ** 私はドイツの大学を卒業し、東京の法律事務所で数年間働いた後、弁護士資格を取得しようと米国のロースクールに通いました。収入はなくなっても「1年間ならやっていけるだろう」と、私もあまり苦勞は考えませんでした。むしろ「New step in life」と、新しい環境を楽しむにしていますね。

**松原** ネガティブな要素ばかり考えてもキリがないですし、行動できませんから。

**ラーデマツハ** 法科大学院に入学

された2010年は、「法科大学院バブル」が少し落ち着いていた頃ですね。

**松原** 当時は修習の給付金が貸与金に切り替わることが決まり、法科大学院人気が下火になりつつある時でした。それでも入学者の人数は少なくはありませんでした。

**ラーデマツハ** 入学を決めた法科大学院を選んだ理由を教えてください。

**松原** 何より自宅から非常に近かったんです(笑)。もちろんそれがすべてではなく、入学試験の結果で学費の半分が免除されることになり、「縁」があると感じました。また、

未修者と既修者の司法試験合格率にそれほど差がなく、私のような未修者にとって良い環境なのではと思ったことも決め手の一つです。

## 2 在学中の環境

**ラーデマツハ** 法科大学院のクラスメイトはどのような方々だったのでしょうか。

**松原** 私のような社会人経験を経た未修者は思ったよりも少数派で、大多数は20代の既修者でした。未修者クラスに通う既修者が多かったのは意外でした。2クラスで人数もそう多くなく、はじめの頃は飲む機会もあったため、自然と仲良くなれました。私に法律の知識がなかったため、法学部出身の同級生にいろいろと教えてもらえたのが大変助かりました。

**ラーデマツハ** 入学後もずっとフリーランスの仕事を続けていたのでしょうか。

**松原** そのつもりでしたが、1年生の前期を終えた時点での成績がほとんどA B C D評価の「C」だったため、「これはまずい」と(笑)。そ

れでもしばらくは週末だけ続けていましたが、その後は完全に辞めました。ただ、仕事を辞めた分、家事をするようになり、今も趣味は献立作りと料理です。私の入学と子供の保育園入園、妻の仕事復帰が重なったため、図らずも良いバランスになりました。

**ラーデマツハ** それはそれで大変そうですね。夜間通学などの選択肢はありませんでしたか。

**松原** 当事務所の弁護士は夜間部の法科大学院出身者が多いのですが、彼らはもともと弁理士として働いていて、ある程度民法や知的財産法の知識がありました。知識ゼロの私では、結局昼間も勉強することになるのでしょうから、私には昼間部が合っていたと思っています。夜間部に通うと、子供にも会えなくなりますから。

## 3 実務に活かせる「学び」とは

**ラーデマツハ** 法科大学院で学ばれたことは現在の仕事につながっているのでしょうか。

**松原** 法科大学院は実務家になる



松原正和

Masakazu Matsubara

98年立命館大学文学部卒業。98年～10年ソフトウェア企業でのシステム開発・企画を経て、ヤフー株式会社にてウェブサービス企画等に従事。13年立教大学大学院法務研究科修了。15年弁護士登録。16年内田・鮫島法律事務所入所。

ことがゴールのため、弁護士や裁判官、検察官などの教員による、実務を意識した授業がとて多かつた印象があります。当時はどの内容が実務に役立つのか理解できていませんでしたが、契約書などの起草や裁判所での実務など、法科大学院での講義や司法試験、司法修習で学んだことが直結する場面が多々あります。実務では法令の条文と判例や事例とをつなげる理論を自分で考えていくのですが、今にして思えば、授業でもそういったことを数多く行っていました。

**ラーデマツハ** 私の授業でも実務を意識し、英文契約書の作成の講習や、英語での交渉の演習などを行っていません。学生からは「難しすぎる」と文句を言われることもあります(笑)。

**松原** 実務に出ればその価値が分かるはずですが。当事務所も英文契約書を扱うことは多いので、きちんと勉強したいと今でも思います。

**ラーデマツハ** 機会があればまだまだ学びたいと思いますか。

**松原** はい。特に英文契約書に関して体系的に学べる機会があればいいと思います。法務部で働く方の多くもそう感じているのではないのでしょうか。ただ、仕事を辞めて法科大学院に通うとなると、やは

り社会人にとってはハードルが高いとは思っています。

**ラーデマツハ** そうですね。早稲田大学ではそんな社会人の方のニーズに応えるために、夜間と土曜を中心とした「知的財産法L.L.M. コース」という、知財に特化した社会人コースを来春にスタートさせる予定です。1年間で修士学位が取得できます。

**松原** 技術系の企業などで知財の知識を身につけたい人もいるでしょうね。

**ラーデマツハ** 実務と理論をバランスよく習得できるプログラムを目指しています。さらに、ビジネス法を英語で理解するためのコースもあるのです。そちらを合わせて学ぶことも可能です。

**松原** それは良いですね。また通いたくなります(笑)。本を読むのと授業を受けるのでは、理解のレベルに大きな差があると思いますから。

**ラーデマツハ** 授業では、具体的にどのような内容について理解を深めたのでしょうか。

**松原** 条文における重要な箇所や、異なる法律間での類似している概念など、強弱の付け方ですね。特に「類似」の概念は非常に重要だ

と思います。応用できるようになれば、400頁の本が100頁の理解で済むかもしれません。

**ラーデマツハ** 強弱の付け方を理解すると効率良く学べるということですね。一方で、実務経験のない学者の教員からはどのようなことを学ばれたのでしょうか。

**松原** 学者の教員からは理論として大切な点を押さえておくべき点等の重み付けを教わり、法律に関する体系的な理解を深めることができました。刻々と変化していく実務の中では、やはり体系的な理解がないと応用の発想がしにくくなると思います。

**ラーデマツハ** 法科大学院時代の交友関係は現在でも続いているのでしょうか。

**松原** 続いています。弁護士になった方もいれば検察官、企業の方務部で働く方もいますので、集まった際には仕事に直結した話をすることが多いですね。当事務所は知財に特化しているので、同期から他の分野に関する話を聞くのは新鮮です。

**ラーデマツハ** どのような話が仕事に直結しているのでしょうか。

**松原** 企業の法務部の方ですと専

門性の高い知財について高いハードルを感じるようで、そういった相談を受けます。私のキャリアから、ソフトウェアに関する質問を受けることも多いです。また、勉強会に誘ってくれるのはいつも法科大学院や修習の同期です。ソフトウェア業界の経験があり、かつ弁護士であるキャリアに期待してきているのか、「AIやIoTに関する勉強会をしたいから来ないか」などと声をかけてくれるのです。こうした勉強会では毎回得るものが多いですね。

**ラーデマツハ** それは良いネットワークですね。ソフトウェアが得意な弁護士は日本では限られていてるのではないのでしょうか。

**松原** そうかもしれません。クライアントにもIoTサービスを行うベンチャー企業が多く、勉強会と実務にシナジーがあると感じます。

**ラーデマツハ** 司法試験に受かる以前から現在の事務所まで働こうと考えていたのでしょうか。

**松原** 漠然と「技術と法律のどちらも活かせる事務所があったらいい」とは思っていました。当事務所の存在は法科大学院時代に知り

ました。当事務所にはさまざまな分野の実務経験者がおり、機械、ソフトウェアなど、技術ジャンルでチームが分かれている点が弁護士事務所としては珍しいと思います。

#### 4 社会人を経てからの「学び」とは

**ラーデマツハ** 学びを継続することや、社会人になってから学ぶことの意味をどのように感じていますか。

**松原** 私は社会人になったからこそ、もう一度大学に戻りたいと思いました。何のために法律があるのか、何のために勉強するのが仕事を経験してようやく分かりましたね。私にとって法科大学院は社会から見ると必要なものをもう一度学び直す場だったので、非常に役に立ちました。法科大学院がなければ、司法試験を受けようなどとは絶対に思わないですから。ただ、費用面や卒業後の就職などの懸念から、社会人が学ぶために仕事を辞めるのはやはりハードルが高いのが現状です。前者に関しては経済的な負担が減らせるような奨学

金制度だったり、後者についてはもっと就職をバックアップするよな場があるとさらに選択の幅が広がるのではないのでしょうか。

**ラーデマツハ** 大学院にも法科大学院のように資格取得を目的とするものから、早稲田LL.M.のように1年間でキャリアアップを図るものまでいろいろあります。目的に合わせて選ぶことも大切ですね。

**松原** 私のように仕事を辞めるケースはまだ少数派ですが、こういったサンプルが増えていくことで、「こういう人生の選択肢もあるんだな」と思ってくれる方も増えるのではないかと思います。

**ラーデマツハ** 成功例があればチャレンジしやすくなりますね。今後のキャリア展望についてはどのようにお考えですか。

**松原** クライアントとの間で技術とビジネス、法律の話が混ざり合っている、日々楽しく、また充実しています。今後のことは私自身も想像が付きませんが、ベンチャー企業にもっと深く関わって、過去のキャリアをより活かしながら法律面でのサポートをしていくのも面白そうだなと思います。

**ラーデマツハ** 弁護士というよりはコンサルタントに近いですね。

**松原** 法律の問題になる前にビジネスで解消できるのであれば、そういう提案をします。一度社会人を経ていることは実務においてもプラスだと感じますね。

**ラーデマツハ** 米国では法律を学びながらもビジネスマインドを持つている人が多く、日本の大学でもそういう人材を育てていきたいと考えています。

**松原** 拡大・多様化する弁護士ニーズに対応するためにも、ビジネス経験を持った弁護士がこれまで以上に望まれていると思います。

#### 弁護士法人 内田・鮫島法律事務所

2004年設立。理系出身者、エンジニア、研究者経験を有する弁護士が多数在籍し、技術系企業を中心に、知財、ITに関する技術法務サービスを提供する。  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング東棟16階  
TEL 03-5561-8550 (代表) FAX 03-5561-8558  
URL <http://www.uslf.jp/> E-mail [info@uslf.jp](mailto:info@uslf.jp)

#### 早稲田大学大学院法学研究科

日本の法学を牽引する優れた研究者・実務家を社会に輩出している。2018年4月より、社会人を対象とした「高度な法的分析能力を有する人材養成プログラム」として、知的財産法LL.M.コースと現代アジア・リージョン法LL.M.コースを開設予定。  
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1  
TEL 03-3232-3924 URL <http://www.waseda.jp/follow/glaw/>  
E-mail [gladlaw@list.waseda.jp](mailto:gladlaw@list.waseda.jp)